

# 視覚障害、聴覚障害における振動利用

井口 正樹<sup>1</sup> 加藤 優<sup>1</sup> 佐藤 文一<sup>2</sup> 設楽 明寿<sup>1</sup> 馬場 哲晃<sup>3,a)</sup> 平賀 瑠美<sup>1,b)</sup>  
本多 達也<sup>4</sup> 山崎 勇祐<sup>5</sup>

**概要：**振動を利用したデバイスの研究開発が行われている。従来から聴覚障害者・視覚障害者を対象としたデバイスは存在するが、さらに便利で豊かな生活にするために、どのような情報を振動は伝えることができるのだろうか。障害の当事者、振動を用いる研究開発を行っている人たちにより、日常での振動利用、研究での振動活用について、それぞれの経験や意見を述べる。

**キーワード：**振動、視覚障害、聴覚障害

## Use of vibration for all of us

MASAKI IGUCHI<sup>1</sup> YUU KATO<sup>1</sup> FUMIKAZU SATO<sup>2</sup> AKIHISA SHITARA<sup>1</sup> TETSUAKI BABA<sup>3,a)</sup>  
RUMI HIRAGA<sup>1,b)</sup> TATSUYA HONDA<sup>4</sup> YUUSUKE YAMAZAKI<sup>5</sup>

**Abstract:** Though there are already several vibrating devices for people with hearing or visually impairment, some researchers have worked on using vibration with their own purposes, not only for our everyday life to be more convenient and with more pleasure. In this organized session, we invite six persons who might have relationships with “vibration.” They talk on the use of vibration from their experiences then we will consider the future use of vibration with participants of the meeting.

### 1. オーガナイズドセッション

視覚や聴覚に障害を持つ場合、情報取得の一つの方法として振動を利用することがある。振動するデバイスにより、日常をより快適に豊かにしようとする研究も行われている。本セッションでは、障害の当事者と振動に関わる研究・開発を行なっている人たちをパネラとして、研究会参加者と共に、障害を支援する振動について今後の発展を考えていきたい。

セッションの構成は以下ようになる。

(1) 振動研究について、基本事項と実際のシステムを簡単

に紹介する。

(2) 各パネラが、日常生活における振動との関わり、研究と振動との関わりについて経験や目標を述べる。

(3) 振動システムのデモンストレーション。

(4) フロアの研究会参加者とともに、振動研究についての議論。

(5) まとめ

振動利用は障害の有無に関わらず様々な可能性を持つことについて考える機会としたい。

<sup>1</sup> 筑波技術大学

<sup>2</sup> 東京大学

<sup>3</sup> 首都大学東京

<sup>4</sup> 富士通株式会社

<sup>5</sup> Hapbeat

a) baba@tmu.ac.jp

b) rhiraga@a.tsukuba-tech.ac.jp